

自分の腕で力になる。

自営業（釣具店） 稲船 国晃さん（瀬棚区本町）

「家業を継いだ理由は」

特に理由はありません。小さい頃から、自分が店をやれるもんだって普通に思ってたから、これってという理由はないですね。男だったし自然に今の仕事を継ぎました。2年間小樽で技術の習得をするために勤めました。

「今楽しいと思うことは」

スポーツが好きで、水曜日は仲間と体育館に集まります。みんな仕事をしているので毎週とはいきませんが、フットサル、バレーボール・バドミントン、いろいろなスポーツで町民大会に参加することを目標に楽しくやっています。20代前半〜30代後半までの17人の仲間です。今は大成区の駅伝大会に出よう



さびすのホームページとブログ見てください！「高校で習った情報処理が役立ちました。でも、「もうちょっと真面目に勉強しておけばよかったかな…」が本音と

かと話しました。

「自分の仕事に今思うことは」

八雲町熊石から島牧村にかけて、故障した船外機を修理しています。漁師さんが生活していくそのものに係わっている仕事だと実感があるし、やりがいがあります。修理を終え漁師さんが沖までいくのを見送ると良かったなと心から思いますね。町で漁師さんと会って「この前は どうも、あれから船の調子いいわー」って言われることが、中でも一番嬉しい言葉ですね。自分が役に立っている仕事だと考える瞬間です。

「「せたな」に今思うことは」

やりがいがある仕事をしているのも事実ですが、現実問題10年後には漁師さんも半分以上になるのではないかと考えています。そうなれば自分の仕事が減っていくことも事実です。釣具店も経営しているのですが、商品管理全般もやっています。これから先を見据えながら考えていく必要があると思っています。ただ、今は自分の持っている技術で漁師さんを支え、そのことで町の産業である漁業を支えたいと思います。

子育てのサポートで力になる。

保育士 高橋 実都理さん（瀬棚区西大里）

「せたな町の好きなところは」

自然いっぱいなところ。保育所の子供達と散歩に行く。冬は山で雪遊び、夏は海での砂遊びや山での虫捕り、秋は川でサケの遡上を見ることができます。子供達と一緒に歩いて行ける範囲内に、こんなに四季を感じながら遊ぶ場所がある町は、そうないと思います。そんな中で育つ子供達は散歩の途中に、自然に触れ、「お花がかわいいね」「虹がきれいだね」と感性豊かな言葉を教えてもいないのに口になります。本当に自然が豊かで、素直な子供達がいるいい町だなと思います。

「今の仕事を選んだ理由」

小さい頃から保育所の先生に



瀬棚保育所0歳児と1歳児「つくし組」の担任です。「一番小さいクラスでは、とにかく愛情をいっぱいそそいで接することが大事なことです。」

なって、地元で就職したいと思っていました。今思うと、保育所に通っていたころの先生にあこがれてたんだと思います。よく先生の真似をしていました。おせっかいな子供でしたよ。この夢は小学生の頃の文集にも書いていたくらいです。

「いつも心がけていることは」

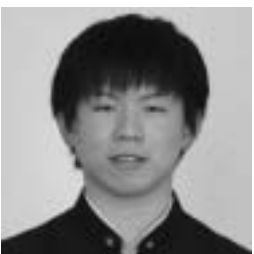
「笑顔と元気」です。私は家庭での子育てのお手伝いをする大切な仕事をさせてもらっています。0歳児は、腰が安定してきて座れるようになったり、歩くようになるようなったり、歩くに介助が必要です。年長組は、文房具を使えるようになる、体力をつけてあげるといいう学校へ行く準備段階になります。保育所での毎日の活動を子供達が笑顔で過ごせば家庭に帰っても親も笑ってくれると思うんです。

「「せたな」に今思うことは」

自分が笑顔でいることを心がけているのはもちろん、子供達や父母の皆さんに笑顔になってほしいと思っています。子供達の笑顔は地域の皆さんの笑顔になってくれると思っていますので、笑顔のある町、そのお手伝いのできたらと思います。

そして、これから町の力になる。

この春、高校を卒業し、「せたな力」となるお二人に今の気持ちをインタビューしました。



檜山北高等学校3年 原田 翔太さん（北檜山区徳島）

「地元で就職しようと思ったきっかけは」

2年生の終わり頃、友達と公務員講習を受けに行き、それから公務員になろうと思いい試験を受けました。

地方公務員の一次試験に合格したので地元に残ろうと思いました。

「どんな町になったらいいと思いますか」

せたな町は人口が少なくなっていることを感じます。人口が減らないようにするには、子供を安心して育てていくことができるように、病気やケガをしたときの医療を充実させるといいと思います。今は具体的に思いつきませんが、そのために何か自分にもできたらいいなと思います。

「今の気持ちは」

4月からは社会人として働くことになるので、今は仕事に対する不安がありますが、早く職場に慣れ、自分のできることをしっかり頑張っていきたい。初めての給料は親へあげること、自分の好きなものを買いたいと思います。



瀬棚商業高等学校3年 横道 綺音さん（北檜山区若松）

「どんな町になったらいいと思いますか」

住んでいる皆さんが、どこで会ってもあいさつができる町になったらいいと思います。ほとんどの皆さんは、あいさつをする返事をしてくれるし、声をかけてくれますが、時々返してくれない人がいるので、私はできるだけあいさつをするようにしています。

「今の気持ちは」

私は昨年、職場体験で病院へ行き、看護師さんのお手伝いをさせてもらいました。患者さんの車いすを押ししたり、ベッドのシーツ交換、足を洗ったり、一緒にお話をしながら折り紙をしました。その時患者さんが笑顔で答えてくれたのが嬉しかった。社会人になったら、また患者さんの笑顔を見られるように頑張りたいと思います。

私は、誰かに注意されると、落ち込んで顔に出る時があります。表情に出してしまうと周りの人まで暗くさせてしまうので、職場では顔に出さないように心がけていきたいと思っています。

町の人口が減少しているのも現実ですが、地域を支え、自分の場所で頑張っている方がたくさんいることも事実です。



小さな子どもから高齢者、町民一人ひとりのせたなへの思いや願い、そしてたくさんの笑顔がつくる大きな力。

皆さんが持っているその力がつながれば、きっと大きなパワーになります。

これが、「せたな力」です。



smile